

「第2期 枚方市いのち支える行動計画（自殺対策計画）【素案】」の概要

基本理念 <自殺は、誰にでも起こり得る危機です><自殺は、その多くが追い込まれた末の死です><自殺は、個人の問題ではなく、社会的な問題です>を基本に、誰もが自殺に追い込まれることなく、安心して生きることができるように、社会全体で生きることの包括的な支援を行い、市民一人ひとりが心身ともに健やかに暮らせる「ひらかた」をめざします。

計画策定の趣旨 平成28年に自殺対策基本法が改正され、市町村において自殺対策計画を策定することが義務づけられたことを受け、平成31年度から5年間の計画期間とする「枚方市いのち支える行動計画（自殺対策計画）」を策定しました。今回、計画が終期を迎えるにあたり、引き続き「誰も自殺に追い込まれることのないひらかた」を実現するために、第2期計画を策定するものです。

計画の期間 令和6年度から令和10年度までの5年間

枚方市の自殺の現状と必要な対策

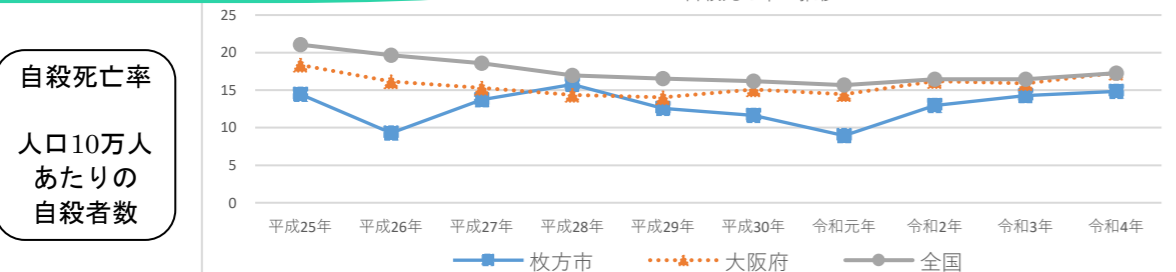


表 自殺死亡率の推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
枚方市	14.43	9.30	13.74	15.76	12.59	11.63	8.94	12.97	14.26	14.84
大阪府	18.35	16.14	15.32	14.36	14.04	15.10	14.44	16.19	15.89	17.29
全国	21.06	19.63	18.57	16.95	16.52	16.18	15.67	16.44	16.44	17.25

- ・人口動態統計では、令和4年は59名の方が自ら命を絶っています。
- ・性別では男性が多く、年代別では50歳代が多くなっています。
- ・年代別死亡原因では、自殺は10歳代・20歳代で1位、30歳代で2位、40歳代で3位、50歳代で4位となっています。
- ・自殺原因・動機別では、多いものから、健康問題、家庭問題、経済・生活問題の順になっています。

<市民意識調査結果>

- ・自ら命を絶ちたいと考えたことがある人 25.8%（うち1年以内：29.8%）
内訳：無職（求職中）の人 42.9% 学生 34.2%
- ・悩みやストレスを感じたとき、誰かに相談や助けを求めることにためらいを感じる人 37.1%
- ・認知度「ゲートキーパー」11.0%(前回比+2.4%)「こころの体温計」7%(前回比-0.3%)
「こころの健康相談統一ダイヤル」65.7%(前回比+16.2%)
「ひらかたいのちのホットライン」53.9%(前回比+9.1%)
- ・児童・生徒が自殺予防について学ぶ機会があった方がいいと思う人 84.8%

必要な対策

- 関係機関・団体とのさらなるネットワーク・連携の推進
- 自殺対策を支える人材育成⇒関係機関職員や市民対象のゲートキーパー研修
- 【新設】自殺者等の名誉及び生活の平穩への配慮
- あらゆる相談窓口において自殺リスクを抱える可能性のある問題についての相談が行われる可能性があることから、適切な支援を行うための包括的な相談支援体制の確立
- 自殺対策についての理解を深めるための、市民への啓発と周知
- 子ども・若者が自殺対策について学ぶ機会の提供
- 自殺死亡率等より年代別に重点的に実施する「中高年者」「子ども・若者」への支援
- 自殺原因より重点的に実施する「経済問題や就労支援」「勤務問題」への支援

計画の数値目標

「誰も自殺に追い込まれることのないひらかた」をめざし自殺死亡率の減少を目標とする。

目標自殺死亡率	平成27年	令和5年	令和8年
国	18.5	→	13.0以下
枚方市	13.7	→	11.0以下

(国)「自殺総合対策大綱」の数値目標

自殺死亡率を主要先進国の水準まで減少させることをめざし、「令和8年までに、自殺死亡率を平成27年と比べて30%以上減少」させる

(参考：令和4年自殺死亡率 国：17.25 枚方市：14.84)

取り組み

基本施策

- 地域におけるネットワークの強化**
 - 自殺対策のためのネットワーク会議の開催
 - 他の事業を通じて地域に展開されているネットワークとの連携
- 自殺対策を支える人材の育成**
 - 市職員・関係機関や市民等向けのゲートキーパー養成研修の実施
 - 心のサポーター養成研修の実施
- 生きることの促進要因への支援**
 - 警察や医療機関との連携による自殺未遂者への支援
 - 遺された人への支援、自死遺族等への支援
 - 自殺リスクを抱える可能性のある人への支援
- 住民への啓発と周知**
 - 相談窓口の周知
 - 自殺予防週間（9月10日～16日）、自殺対策強化月間（3月）における取り組み
 - 市民向け講演会での啓発
 - 広報ひらかた等の活用
- 女性への支援（新設）**
 - 妊産婦への支援の充実
 - 出産後間もない時期の産婦への支援の充実
 - 女性の多様な相談ニーズに対応できる相談体制の整備
 - 適切な相談窓口の周知と男女共同参画社会の実現に向けた啓発

指標と目標値

基本施策	取り組み指標	現状	令和10年度目標値
1. 地域におけるネットワークの強化	自殺対策ネットワーク会議の充実	令和4年度 年2回開催	継続実施 構成員に研修を実施 (年1回)
2. 自殺対策を支える人材の育成	庁内にて実施するゲートキーパー養成研修の庁内参加率	令和元年度 89.9%	100%
	庁外にて実施するゲートキーパー養成研修における理解度 受講後に「理解できた」と回答した割合 心のサポーター養成研修を受講した人数	令和元年度 98.8% (参考:庁内) 令和4年度 37人	85% 500人
3. 生きることの促進要因への支援	悩みを抱えた時やストレスを感じた時、支援を求めることにためらいを感じる人の割合	37.1%	30%以下
	『自殺未遂者支援事業』相談希望者が支援を受け、6か月以内に危機的な状況を脱し、支援終了に至る割合	90.2%	95%以上
4. 住民への啓発と周知	「ゲートキーパー」という言葉を知っている人の割合	令和4年度 意識調査 11.0%	30%以上 (継続)
	「こころの体温計（モバイルによるメンタルチェック）」を知っている人の割合	令和4年度 意識調査 6.7%	30%以上 (継続)
5. 女性への支援（新設）	「産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができた」と感じる人の割合	89.8%	97.0%
	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」という言葉を知っている人の割合	令和元年度 女性28.9% 男性17.5%	50.0%

重点施策

1. 中高年者への支援	「ひらかた健康ほっとライン24」の利用（参考値：40代以上利用数）	令和4年度 18,985件	継続実施
2. 子ども・若者への支援	地域包括支援センターにおける相談	令和4年度 31,977件	継続実施
	子ども・若者に接する人に対するSOSの出し方教育に関する研修の実施 ※新型コロナの影響により実施に至らず	※	継続実施
3. 経済問題に関わる取り組み	「こころの体温計」の利用（参考値：10～30歳代利用数）	令和4年度 3,825件	継続実施
	生活困窮者からの新規相談受付	令和4年度 1,578件	継続実施
4. 勤務問題に関わる取り組み	労働者や経営者が問題を抱えたときの相談窓口の情報提供	—	新規実施